

1. 人類が直面する3つの危機は、「気候変動」「生物多様性の損失」「汚染」。

「汚染」の解決に向けた動きは？

「環境汚染」には様々なものがありますが、なかでも「プラスチックごみ」は対策の難しさが浮き彫りになっています。今年ジュネーブで開催された、プラスチックごみ汚染対策の国際条約づくりのための政府間交渉は、前回に続き、合意できませんでした。

2. 「プラスチックごみ」は世界全体の問題。合意できないのは何故？

条約が必要だと訴えたのはヨーロッパや中南米の国々、世界各地の島国でしたが、原料となる石油を産出するサウジアラビアなど産油国が強硬に反対。中国も慎重な姿勢を示し、規制を容認していた米国も、トランプ政権になって産油国寄りとなったためです。日本は、高い目標を掲げる国々のグループに名を連ねつつ、一律の生産規制ではなく各国の事情に合わせて取り組むべきだという姿勢でした。

3. 日本のプラスチックリサイクル率は世界でどの位？

日本ではレジ袋の有料化や分別などが定着してきているので、世界トップクラスだと思いたいところです。

（一社）プラスチック循環利用協会の発表によると、2023年の日本のリサイクル率は89%で世界トップクラスですが、このうち60%以上は焼却によるサーマルリサイクルです。世界基準では二酸化炭素を出す焼却は率から除かれるので、日本は中間より少し下程度の低いほうの順位になってしまいます。

日本の世界基準でのリサイクル率が低いのは、食品類に過剰包装やプラスチック容器利用が多いことと、廃棄プラスチックを材料として再利用せずに焼却している率が高いことが原因です。なお、ペットボトルの再利用率に限っては、90%以上と世界トップ水準です。

4. 「プラスチック汚染」以外の汚染の状況は？

最近では、「PFAS等の土壌汚染や水質汚染」も大きな問題になっています。大気汚染、水質汚染、土壌汚染に加え、騒音や振動や悪臭も廃棄物等も汚染と言えます。

地球温暖化をもたらしている「温室効果ガス」も地球規模の環境汚染と言えます。

5. 汚染問題を解決してくれる「正義の味方」は現れないか？

汚染物質をバイキンマンとすると、アンパンマンですね。

アンパンマンなら「空を飛ん」で汚染の発生を監視し、汚染があれば「アン

パンチ」で除去し、「顔をちぎってあげ」て、汚染地域の健康を取戻してくれますね。

6. 新たな汚染は、バイキンマンのように懲りずに直ぐに現れるが…。

バイキンマンのような汚染は、「良い筈のことや必要なこと」から副次的に生まれてくることが多いことと、止まらない人間の欲望が生み出すからでしょうね。だから、汚染を完全にゼロにするのは無理かと思いますが、バイキンマンの仲間には、ドキンちゃんのように天真爛漫で憎めないキャラもいて、世の中の発展や環境保全とを繋ぐ役割を担っているようにも思えます。

7. ドキンちゃんの存在は、魅力的でもあります。

ドキンちゃんのような無邪気な欲望は、人間社会に必要なエネルギー源でもあるので、いたちごっこ型ではなく、共存型を目指したいです。

環境汚染対策は、汚染物質であるバイキンマンをただやっつけるのではなく、発生源削減や循環型社会化で「悪さをしにくい世界」にしていく、ということだと思います。

アンパンマンワールドでは、ジャムおじさんにバタコさん、ドキンちゃん好きな食パンマン、カレーパンマン、チーズ達だけでなく、暴れるバイキンマンも、いたずら好きのドキンちゃんも広く共存しています。

そして、「バイキンマンはいつも最後には退場する」というのがいいです。

8. アンパンマンの顔の再生は「循環」のシンボル。

環境汚染の解決には、「循環」や「自然の豊かさの回復」の観点がとても大切で「サーキュラーエコノミー」「ネイチャーポジティブ」という言葉に象徴されるように、様々な取組みが行われています。

汚染問題は一朝一夕には解決しないため、日々の生活とともに継続的で…「サステナブル」であることが大切です。

9. アンパンマンは親子が共に楽しめる長寿作品。環境問題も。

環境汚染の問題解決はなかなか困難ですが、アンパンマンのように、勇気百倍で、更なる悪化を食い止めていきたいです。

愛と勇気で向き合い、健康な地球を守っていきましょう。

以上